預言者伝（スィーラ）

第 15 巻

フダイビーヤの和約

リドワーンの誓いと明白な勝利



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 15 巻

フダイビーヤの和約

リドワーンの誓いと明白な勝利 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

لَّقَدْ رَضِيَ ٱللَّهُ عَنِ ٱلْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ تَحْتَ ٱلشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِي قُلُوبِهِمْ فَأَنزَلَ ٱلسَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَٰبَهُمْ فَتْحًا قَرِيبًا

「かれらがあの樹の下であなたに忠誠を誓った時、アッラーは信者たちに、ことの外御満悦であった。かれはかれらの胸に抱くことを知り、かれらに安らぎを下し、手近な勝利をもって報われた。」

勝利章 48:18

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

木の下で誓いを立てた信者たちに満悦され、和平を明白な勝利とされたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻は、フダイビーヤの和約を語ります。阻まれたウムラ、あふれ出た井戸、リドワーンの誓い、一方に偏って見えた条件、そしてそれを「明白な勝利」と名づけた勝利章です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、岩の多い谷の真ん中にある**古い石の井戸**です。**晴れた朝**の光の中、**あふれるほどの澄んだ水**が縁まで満ち、日の光にきらめいています。そのまわりでは、乾いた土から**緑の若芽**が芽吹き始め、はるかな地平線には、マッカの方角に**青い山並み**が見えます。

その井戸は、一滴の水もないほど涸れていたのに、アッラーの使徒 ﷺ がウドゥーの水を注ぎ、祈られた後にあふれ出したフダイビーヤの井戸を思い起こさせます（『サヒーフ・ブハーリー』4150）。緑の若芽は、勝利章にある教友たちのたとえ — 「芽を出し、それを強める作物のように」（48:29）— を象徴しています。小さく見えた和平が、大きな勝利を育てたのです。遠くの山々は、慕い続けたマッカの方角であり、やがて人々は安らかにそこへ入りました（48:27）。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

目次

フダイビーヤの和約 — はじめに

1. アッラーの使徒の夢 🕋 — 勝利章 48:27

2. ウムラへの出発 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731；スィーラ書

3. アル＝カスワーがひざまずく — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

4. あふれ出たフダイビーヤの井戸 — 『サヒーフ・ブハーリー』4150

5. クライシュの使者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

6. マッカへ向かうウスマーン — 『サヒーフ・ブハーリー』3698；スィーラ書

7. リドワーンの誓い — 『サヒーフ・ブハーリー』4169；勝利章 48:10

8. 「地上で最も優れた人々」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4154；『サヒーフ・ムスリム』2496

9. 木の下でのアッラーの満悦 — 勝利章 48:18

10. 忘れられた木 — 『サヒーフ・ブハーリー』4163

11. スハイル・ブン・アムルの到着 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

12. 和約の起草 — 『サヒーフ・ムスリム』1784

13. 和約の条件 — 図；『サヒーフ・ブハーリー』2731

14. 足かせのアブー・ジャンダル — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

15. ウマルの動揺 — 『サヒーフ・ブハーリー』3182

16. ウンム・サラマの助言 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

17. タハッルル：犠牲を屠り、髪を剃る — 雌牛章 2:196

18. 勝利章の啓示 — 『サヒーフ・ブハーリー』4177

19. それは勝利なのか？ — 『サヒーフ・ブハーリー』4172、4150

20. アブー・バスィール：約束された出口 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

21. 移住してきた女性たち — 試問される女章 60:10

22. 交渉の技 — 戦利品章 8:61

23. フダイビーヤの物語の典拠 — 図；表

24. 残った者たちと隠れた者たち — 勝利章 48:11–17、20–25；表

25. フダイビーヤにおける協議と諸規定 — 『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179、4159；雌牛章 2:196

26. フダイビーヤの和約の人物 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2731；『サヒーフ・ムスリム』1856、1858

27. フダイビーヤへの道の地名 — 表

28. フダイビーヤの和約の年表 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』1778

29. フダイビーヤの和約についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

フダイビーヤの和約

ヒジュラから6年がたっても、移住者たちはなおマッカとカアバを慕っていました。かれらはバドル、ウフド、ハンダク、そしてさまざまな試練をくぐり抜けてきました（第9〜14巻）。**ヒジュラ暦6年ズル＝カアダ月**、アッラーの使徒 ﷺ は約 **1,400人**の教友とともに出発されました — 戦うためではなく、**ウムラを行う**ためです。

クライシュは、聖域の端にある**アル＝フダイビーヤ**でかれらを阻みました。そのぶつかり合いから一つの和平条約が生まれましたが、その条件はムスリムにとって**不利**に見え、ウマル رضي الله عنه でさえ動揺したほどでした。しかし帰り道、アッラーは**勝利章**を下し、その条約を「**明白な勝利**」と名づけられたのです。

この話は、アル＝ミスワル・ブン・マフラマとマルワーンによって、『サヒーフ・ブハーリー』の中でも最も長いハディースの一つとして詳しく伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。それは私たちに**忍耐、服従、交渉の知恵**を教え、敗北に見えるものが、どのように勝利になりうるかを教えてくれます。

フダイビーヤの和約の年表（ヒジュラ暦6年ズル＝カアダ月）

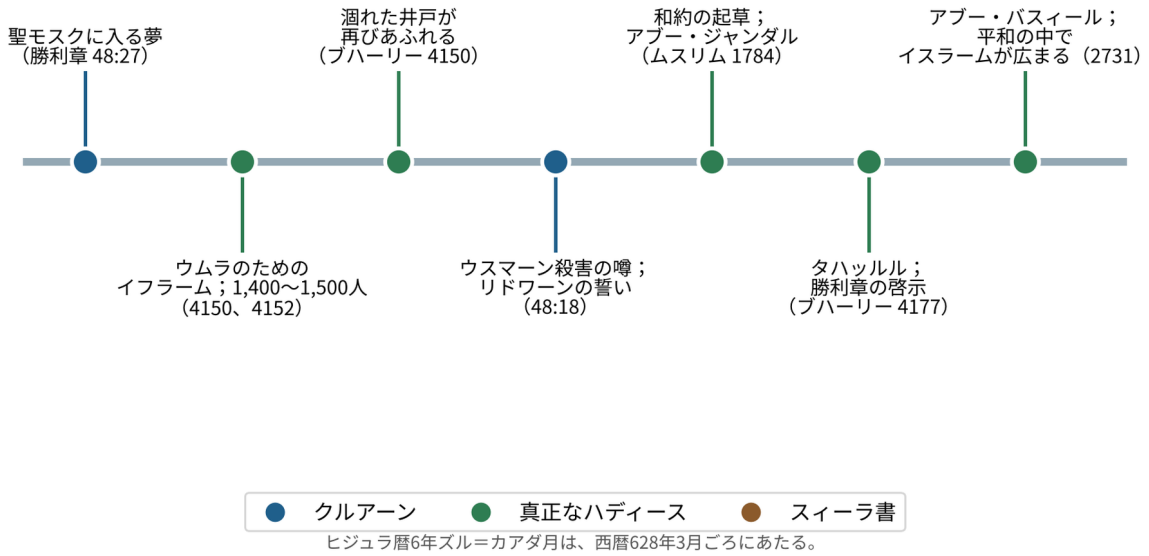


図1：フダイビーヤの和約の年表。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

アッラーの使徒の夢 ﷺ

この旅は一つの**夢**から始まりました。アッラーの使徒 ﷺ は、ご自身と教友たちが安らかに聖モスクに入り、頭を剃り、また髪を短くする夢を見られました。預言者たちの夢は**啓示**です。そこで教友たちは喜び、出発の支度をしました。アッラーはのちに、勝利章でこの夢に触れられました：

「アッラーはその使徒に、真実をもって夢を確かなものとされた。あなたがたは、アッラーが御望みなら、必ず安全に聖モスクに入るであろう」『イブン・カスィール注釈』48:27。

しかし、その夢は**年を示していません**でした。教友たちはその年のうちに実現すると思っていたので、阻まれたとき、多くの者が落胆しました。イブン・カスィールは、アッラーがそれを**1年**延ばされ、ヒジュラ暦7年のウムラ・アル＝カダーで本当に実現したと説明しています。

教訓：アッラーの約束は**必ず真実**ですが、その時はアッラーの知識によって決まり、私たちの思い込みによってではありません。アッラーご自身が時を定められなかった約束に、私たちが時を定めるとき、失望が生まれやすいのです。

ウムラへの出発

アッラーの使徒 ﷺ は、ズル＝カアダ月にマディーナを出発されました。それはアラブの人々が敬い、戦いが禁じられていた**聖なる月**の一つです。**ズル・フライファ**で、使徒と教友たちはウムラのイフラームに入り、使徒は**犠牲の動物（ハドユ）**に印をつけ、首飾りをかけられました。礼拝のために来たことを示すためです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

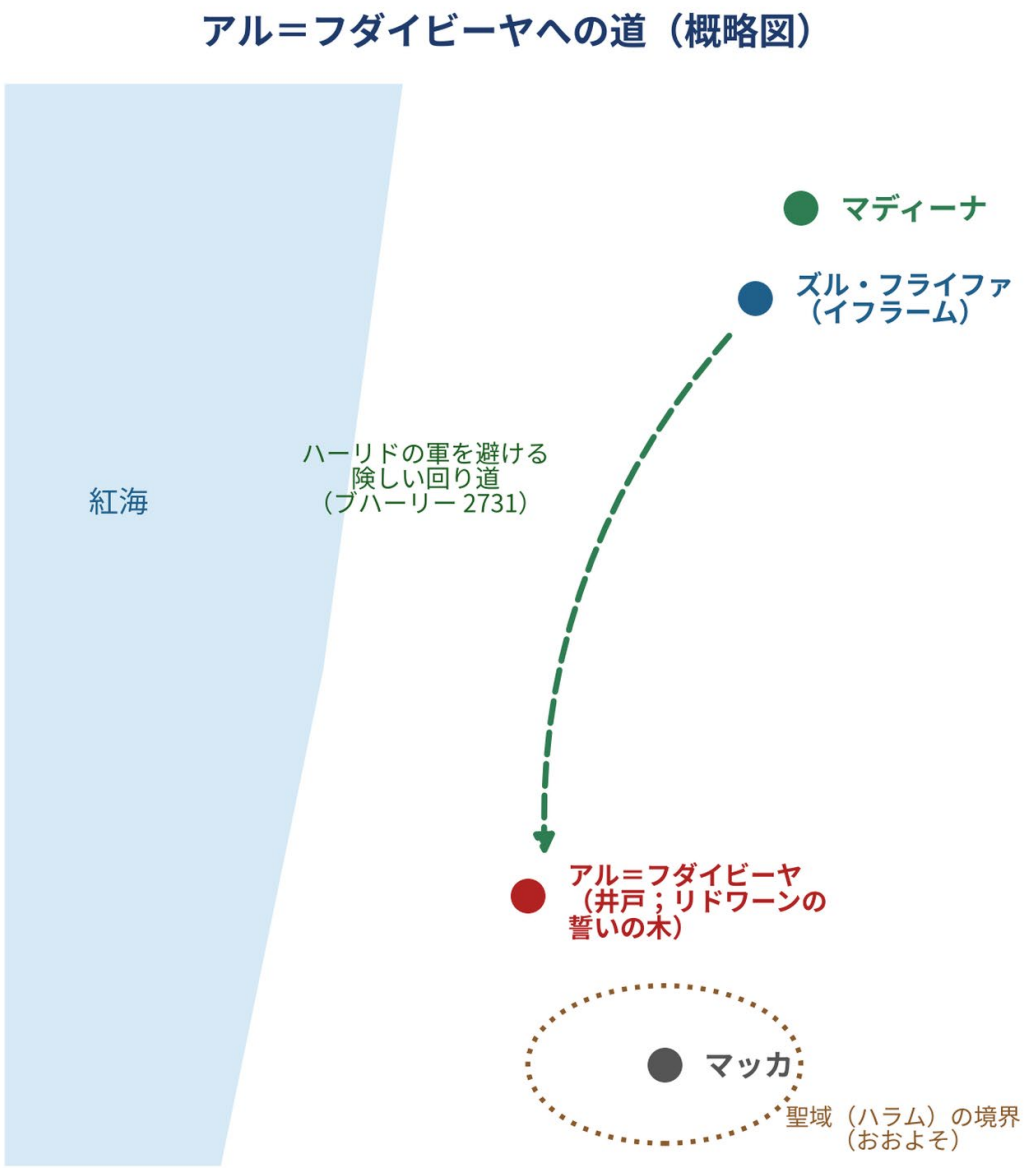


図 2：マディーナからアル＝フダイビーヤへの旅（概略図）。

しるし	クライシュへのメッセージ
聖なる月（ズル＝カアダ月）	私たちは戦うために来たのではない
イフラームの衣	私たちはウムラの巡礼者として来た
首飾りをかけた犠牲の動物	私たちはカアバを敬うために来た
鞘に収めた剣だけ	旅人の武器だけ（スィーラ書）

ジャービルとアル＝バラーウのハディースは、かれらの人数を **1,400 人**、または **1,500 人**と伝えています（第 4 章）。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**平和から始め**、明確な行動によって意図を示し、攻撃する口実を与えられませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖月

アッラーは仰せられます：「まことにアッラーの御許での月の数は 12 か月である… そのうち **4 か月は聖なる月**である」（悔悟章 9:36）。その 4 か月とは**ズル＝カアダ月、ズル＝ヒッジャ月、ムハッラム月、ラジャブ月**です。ジャーヒリーヤのアラブ人自身もこれらの月を敬い、その間は戦いをやめていました。

ズル＝カアダ月を選ぶことで、アッラーの使徒 ﷺ はクライシュを**ジレンマ**に置かれました。もし聖なる月に武器を持たないウムラの巡礼者を阻めば、かれらはアラブの諸部族の目に不正な者と映るからです。教訓：**正しい時を選ぶこと**は知恵の一部です。

アル＝カスワーがひざまずく

使徒が**ウスファーン**に着かれたとき、クライシュが阻む準備をし、**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**（当時はまだムスリムではなかった）が騎兵を率いてアル＝ガミームで待ち構えているという知らせが届きました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらと衝突しないよう、丘を越える険しい**別の道**を選ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

マッカへ下る丘に着いたとき、使徒のラクダ**アル＝カスワー**が突然**ひざまずき**、立ち上がろうとしませんでした。人々は「アル＝カスワーが強情を張った！」と言いました。使徒は仰せられました：「**アル＝カスワーは強情を張ったのではなく、それはその性質でもない。象を（マッカから）押しとどめた御方が、これを押しとどめられたのだ。**」 それから仰せられました：「**わたしの魂をその御手に握る御方にかけて、かれらがアッラーの聖なるものを敬う計らいを求めてくるなら、わたしは必ずそれを与えよう。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

「象を押しとどめた御方」とは、使徒の誕生の年にマッカへ入ることを阻まれた**アブラハの象の軍勢**の出来事を指しています（象章）。アッラーの使徒 ﷺ は、そのときアッラーが聖域で**血が流されることを望まれていない**ことを理解されたのです。

教訓：指導者は**しるし**を読み取り、流血から最も遠い道を選びます。**アッラーの聖なるものを敬うどんな計らいでも**受け入れようとされた使徒の姿勢が、その後の和約の土台となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

押しとどめられた象

「象を押しとどめた御方に押しとどめられた」という使徒の言葉は、**象の年**の出来事を思い起こさせます。アッラーは仰せられます：「あなたは、あなたの主が象の仲間をどのように扱われたかを見なかったか」（象章 105:1）。アブラハはカアバを壊すために象を連れて来ましたが、その象はマッカの方へ進もうとせず、アッラーはかれの軍勢を滅ぼされました。

二つの出来事は、アッラーが**聖域の神聖さを守られる**ことを示しています。しかし今回は目的が違いました。アッラーがアッラーの使徒 ﷺ のラクダを押しとどめられたのは、誰かを滅ぼすためではなく、**流血を避け**、和平への道を開くためだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

あふれ出たフダイビーヤの井戸

アッラーの使徒 ﷺ はアル＝フダイビーヤの谷の端、水のごく少ない井戸のそばで止まられました。何千もの人とラクダがいたので、井戸はすぐに涸れてしまいました。アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه はそのとき起きたことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4150 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ تَعُدُّونَ أَنْتُمُ الْفَتْحَ فَتْحَ مَكَّةَ، وَقَدْ كَانَ فَتْحُ مَكَّةَ فَتْحًا، وَنَحْنُ نَعُدُّ الْفَتْحَ بَيْعَةَ الرِّضْوَانِ يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ. كُنَّا مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَرْبَعَ عَشْرَةَ مِائَةً، وَالْحُدَيْبِيَةُ بِئْرٌ فَنَزَحْنَاهَا، فَلَمْ نَتْرُكْ فِيهَا قَطْرَةً، فَبَلَغَ ذَلِكَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَأَتَاهَا، فَجَلَسَ عَلَى شَفِيرِهَا، ثُمَّ دَعَا بِإِنَاءٍ مِنْ مَاءٍ فَتَوَضَّأَ ثُمَّ مَضْمَضَ وَدَعَا، ثُمَّ صَبَّهُ فِيهَا فَتَرَكْنَاهَا غَيْرَ بَعِيدٍ ثُمَّ إِنَّهَا أَصْدَرَتْنَا مَا شِئْنَا نَحْنُ وَرِكَابُنَا.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：「**あなたがたは、勝利（アル＝ファトフ）とはマッカの解放のことだと思っている — マッカの解放もたしかに勝利である — だが私たちは、フダイビーヤの日のリドワーンの誓いこそが勝利だと考えている。** 私たちは預言者 ﷺ とともに ***1,400*** 人いた。アル＝フダイビーヤとは一つの井戸のことで、私たちが水を汲み尽くしたので一滴も残らなかった。その知らせが預言者 ﷺ に届くと、使徒は来て井戸のそばに座られた。水の入った器を求められ、ウドゥーをして口をすすぎ、祈られ、それを井戸に注がれた。私たちはしばらくそのままにしておいた。**すると井戸は、私たちと乗用の家畜が望むだけ水を与えてくれたのだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4150 番；第 3577 番にも。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4150

注目してください：教友たちにとって**真の勝利**とは、マッカの解放ではなく、リドワーンの誓いでした（第19章）。

指の間からの水

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما も、同じ日に起きた水にまつわるもう一つの奇跡を伝えています：

ハディース —『サヒーフ・ブハーリー』第 4152 番

حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ عِيسَى، حَدَّثَنَا ابْنُ فُضَيْلٍ، حَدَّثَنَا حُصَيْنٌ، عَنْ سَالِمٍ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ عَطِشَ النَّاسُ يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ يَدَيْهِ رَكْوَةٌ، فَتَوَضَّأَ مِنْهَا، ثُمَّ أَقْبَلَ النَّاسُ نَحْوَهُ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا لَكُمْ. قَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ لَيْسَ عِنْدَنَا مَاءٌ نَتَوَضَّأُ بِهِ، وَلاَ نَشْرَبُ إِلاَّ مَا فِي رَكْوَتِكَ. قَالَ فَوَضَعَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَدَهُ فِي الرَّكْوَةِ، فَجَعَلَ الْمَاءُ يَفُورُ مِنْ بَيْنِ أَصَابِعِهِ كَأَمْثَالِ الْعُيُونِ، قَالَ فَشَرِبْنَا وَتَوَضَّأْنَا. فَقُلْتُ لِجَابِرٍ كَمْ كُنْتُمْ يَوْمَئِذٍ قَالَ لَوْ كُنَّا مِائَةَ أَلْفٍ لَكَفَانَا، كُنَّا خَمْسَ عَشْرَةَ مِائَةً.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：**フダイビーヤの日、人々はのどが渇いていた。アッラーの使徒 ﷺ の前には小さな水の器（ラクワ）があり、使徒はそれでウドゥーをされた。人々は使徒の方へやって来た。** 使徒は「どうしたのか」と尋ねられた。かれらは「アッラーの使徒よ、あなたの器にある水のほかには、ウドゥーをする水も飲む水もありません」と答えた。**そこで預言者 ﷺ が手を器に入れられると、指の間から泉のように水が湧き出し始めた。** 私たちは飲み、ウドゥーをした。（サーリムは言った：）私は

ジャービルに「そのとき何人いたのですか」と尋ねた。かれは答えた：「たとえ10万人いても足りただろう。私たちは**1,500人**だった。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ユースフ・ブン・イーサー ← イブン・フダイル ← フサイン・ブン・アブドゥッラフマーン ← サーリム・ブン・アビー・アルジャアド ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第4152番；第3576番にも；『サヒーフ・ムスリム』第1856番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4152

奇跡	説明
あふれ出た井戸	使徒のウドゥーの水と祈りが涸れた井戸に注がれた（4150）
指の間からの水	使徒の指の間から泉のように水が湧き出た（4152）
人数	1,400〜1,500人が飲み、ウドゥーをした
証人	アル＝バラーウとジャービル — 二人ともその場にいた

教訓：和約という大きな試練の前に、アッラーは、かれら自身が目にした奇跡によって教友たちの**信仰を強められ**ました。アッラーの助けを見た心は、試されたときに忍耐しやすいのです。

© 2026年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

クライシュの使者たち

クライシュは、ムスリムの目的を探るために何人かの使者を送りました。最初は、フザーア族の**ブダイル・ブン・ワルカー**です。アッラーの使徒 ﷺ はかれに仰せられました：「**私たちは誰とも戦うために来たのではなく、ウムラを行うために来たのだ。戦いはクライシュを弱らせてしまった…。もしかれらが望むなら、わたしはかれらと一定期間の和平を結ぶ用意がある。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

次に**ウルワ・ブン・マスウード・アッ＝サカフィー**がやって来ました。かれは教友たちを注意深く観察し、帰ってクライシュにこう言いました：「**わが民よ、アッラーにかけて、私はカイサル、キスラー、ナジャーシーといった王たちに会ってきたが、ムハンマドの教友たちがムハンマドを敬うほどに、家来から敬われている王を見たことがない。**」 かれは、教友たちが使徒のウドゥーの水を争って受け、その前では声を低くし、敬意のあまり使徒をじっと見つめることもしなかった様子を伝えました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使者	結果
ブダイル・ブン・ワルカー	和平の申し出をクライシュに伝えた
ウルワ・ブン・マスウード	教友たちの愛に感嘆し、受け入れるようクライシュに助言した
キナーナ族の男	首飾りをかけた犠牲の動物を見て「かれらを阻むべきではない！」
ミクラズ・ブン・ハフス	使徒が「悪い男」と評した

教訓：**品性と愛情** — 教友たちがアッラーの使徒 ﷺ に向けたもの — こそ、最も効果のあるダアワとなりました。敵の使者は、恨みではなく感嘆を抱いて帰って行ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真の愛

ウルワ・ブン・マスウードが見たものは、単なる礼儀ではなく**信仰**でした。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました：「**あなたがたのうち誰も、わたしがその者にとって父や子やすべての人々よりも愛しい存在とならない限り、（完全に）信仰したことにはならない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』15）。

教友たちの愛は、その後フダイビーヤで試されました。使徒の決定が自分の気持ちに反しても、かれらは従うだろうか。教訓：アッラーの使徒 ﷺ への真の愛は、外面の敬意だけでなく**服従**によって証明されます。

マッカへ向かうウスマーン

アッラーの使徒 ﷺ は次に**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه をマッカに遣わし、自分たちの目的を説明させました。ウスマーンにはマッカに、かれを守ることのできる有力な一族がいたからです。

スィーラの注：世間を騒がせた噂

スィーラ書は、クライシュがウスマーンにカアバのタワーフを許そうとしたが、かれが断ったと伝えています：「**アッラーの使徒 ﷺ がタワーフをされるまで、私はタワーフをしない。**」クライシュはかれを予想以上に長く引き留めたので、**ウスマーンが殺されたという噂**が広まりました。

使者を殺すことは、アラブの慣習では重大な裏切りでした。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、教友たちに誓いを立てるよう呼びかけられたのです（第 7 章）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

真正なハディースは、ウスマーンへのたいへん大きな栄誉を記録しています。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、ウスマーンがマッカに遣わされていたためリドワーンの誓いに居合わせなかったことを説明し、こう述べました：「**アッラーの使徒 ﷺ は右手を示して『これはウスマーンの手だ』と仰せになり、それを（もう一方の）手に打ち合わせて『これはウスマーンのためだ』と仰せられた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3698）。

教訓：ウスマーンは**個人的な機会を取らず**、アッラーの使徒 ﷺ より先にタワーフをしようとはしませんでした。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、任務のために不在だった教友の**権利を守られ**、ご自身の手がウスマーンの手となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

リドワーンの誓い

ウスマーンについての噂が届くと、アッラーの使徒 ﷺ は**一本の木**の下に座り、教友たちに誓いを呼びかけられました。かれらは次々に押し寄せました。その誓いの内容は何だったのでしょうか。誓った者の一人、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه が簡潔に答えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4169 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا حَاتِمٌ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي عُبَيْدٍ، قَالَ قُلْتُ لِسَلَمَةَ بْنِ الأَكْوَعِ عَلَى أَيِّ شَىْءٍ بَايَعْتُمْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ. قَالَ عَلَى الْمَوْتِ.

訳：

ヤズィード・ブン・アビー・ウバイドは言った：**私はサラマ・ブン・アル＝アクワウに尋ねた。「フダイビーヤの日、あなたがたは何についてアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てたのですか。」** かれは答えた：**「死についてだ。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ハーティム・ブン・イスマーイール ← ヤズィード・ブン・アビー・ウバイド ← サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4169 番；第 2960 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1860 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4169

別の伝承では、ジャービル رضي الله عنه は、かれらが戦場から**逃げないこと**を誓ったと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1856）。どちらも同じ意味です：最後の一滴の血まで忠実であるということです。かれらはイフラームの衣をまとい、剣を鞘に収めて来ましたが、真理のためには死ぬ覚悟がありました。

アッラーはその誓いをきわめて高い位に上げられました：**「本当にあなたに忠誠を誓う者たちは、アッラーに忠誠を誓うのである」**『イブン・カスィール注釈』48:10。

教訓：真の忠誠は、安楽なときではなく**危険**なときに試されます。そしてアッラーの使徒 ﷺ へのあらゆる約束は、実は**アッラーへの約束**なのです。

三度誓ったサラマ

イマーム・ムスリムの長い伝承の中で、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه は、自分が人々の最初のほうで誓いを立てたと語っています。半ばまで来たとき、アッラーの使徒 ﷺ は「サラマよ、誓いなさい」と仰せられました。かれは「アッラーの使徒よ、私はもう誓いました」と答えました。使徒は「もう一度」と仰せられました。そして最後に、使徒はかれに**三度目**の誓いを求められました（『サヒーフ・ムスリム』1807）。

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が戦いでの勇気と素早さゆえにサラマを**称えよう**とされたのだと説明しています。教訓：良い指導者は、従う者一人ひとりの**長所を知り**、それを大切にします。

「地上で最も優れた人々」

アッラーの使徒 ﷺ は、木の下で誓った人々に比類のない賛辞を与えられました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4154 番

حَدَّثَنَا عَلِيٌّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، قَالَ عَمْرٌو سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ لَنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ أَنْتُمْ خَيْرُ أَهْلِ الأَرْضِ. وَكُنَّا أَلْفًا وَأَرْبَعَمِائَةٍ، وَلَوْ كُنْتُ أُبْصِرُ الْيَوْمَ لأَرَيْتُكُمْ مَكَانَ الشَّجَرَةِ. تَابَعَهُ الأَعْمَشُ سَمِعَ سَالِمًا سَمِعَ جَابِرًا أَلْفًا وَأَرْبَعَمِائَةٍ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ はフダイビーヤの日、私たちに仰せられた：「**あなたがたは地上の民の中で最も優れた者たちである。**」 私たちは 1,400 人だった。「**もし今日も私の目が見えたなら、あの木の場所をあなたがたに示したであろう。**」 アル＝アアマシュもこれを裏づけている：かれはサーリムから聞き、サーリムはジャービルから聞いた — 1,400 人と。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝マディーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما；裏づけ：アル＝アアマシュ ← サーリム ← ジャービル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4154 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1856 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4154

ジャービルは年老いて目が見えなくなってから、このハディースを伝え、「もし私の目がまだ見えたなら、あの木の場所をあなたがたに示したであろう」と言いました。さらに、アッラーの使徒 ﷺ はかれらの来世について保証を与えられました：

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2496 番

حَدَّثَنِي هَارُونُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا حَجَّاجُ بْنُ مُحَمَّدٍ، قَالَ قَالَ ابْنُ جُرَيْجٍ أَخْبَرَنِي أَبُو الزُّبَيْرِ، أَنَّهُ سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ، يَقُولُ أَخْبَرَتْنِي أُمُّ مُبَشِّرٍ، أَنَّهَا سَمِعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ عِنْدَ حَفْصَةَ لاَ يَدْخُلُ النَّارَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ مِنْ أَصْحَابِ الشَّجَرَةِ أَحَدٌ. الَّذِينَ بَايَعُوا تَحْتَهَا. قَالَتْ بَلَى يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَانْتَهَرَهَا فَقَالَتْ حَفْصَةُ { وَإِنْ مِنْكُمْ إِلاَّ وَارِدُهَا} فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَدْ قَالَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { ثُمَّ نُنَجِّي الَّذِينَ اتَّقَوْا وَنَذَرُ الظَّالِمِينَ فِيهَا جِثِيًّا}

訳：

ウンム・ムバッシル رضى الله عنها は、預言者 ﷺ がハフサのそばでこう仰せられるのを聞いた：「**アッラーが御望みなら、あの木の人々（アスハーブ・アッ＝シャジャラ）の中で、その木の下で誓いを立てた者は誰一人、地獄の火に入ることはない。**」 ハフサは「いいえ（入るのでは）、アッラーの使徒よ」と言った。使徒はかの女をたしなめられた。ハフサは「あなたがたの中で、そこ（地獄）に来ない者は一人もいない」（マルヤム章 19:71）と読んだ。預言者 ﷺ は仰せられた：「**至高にして偉大なるアッラーは、『それからわれは、主を畏れた者たちを救い、不正な者たちをそこにひざまずかせたままにしておく』と仰せられている。**」（マルヤム章 19:72）。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ハールーン・ブン・アブドゥッラー ← ハッジャージュ・ブン・ムハンマド ← イブン・ジュライジュ ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー ← ウンム・ムバッシル رضى الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』教友の美徳の書、木の人々の美徳の章、ハディース第 2496 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2496

アッラーの使徒 ﷺ とハフサ رضى الله عنها のやり取りに注目してください。ハフサは反論したのではなく、クルアーンの節に基づいて**理解するために尋ねた**のであり、使徒もまたクルアーンの節で答えられました。これが学びにおける話し合いの作法です。

教訓：リドワーンの誓いに加わった教友たちの地位はきわめて高いのです。かれらをののしることは、アッラーの使徒 ﷺ が称え、アッラーが満悦された人々をののしることになります（第 9 章）。

木の下でのアッラーの満悦

アッラーご自身が、審判の日まで読まれ続ける節の中で、かれらへの満悦を記録されました：「**アッラーは、信者たちが木の下であなたに忠誠を誓ったとき、かれらに満悦された**」『イブン・カスィール注釈』48:18。

この節があるからこそ、その誓いは**リドワーンの誓い** — 満悦の誓い — と呼ばれます。この節は、かれらへの四つの恵みを述べています：

恵み	48:18 の節の中で
アッラーの満悦	「アッラーは信者たちに満悦された」
アッラーは心の中をご存じ	「…かれらの心の中にあるもの」
安らぎ	「かれらの上に安らぎを下された」
近い勝利	「…近い勝利」（ハイバル）

アラビア語の**サキーナ**（安らぎ）という言葉は、勝利章の中で何度も繰り返されています（48:4、18、26）。和約の条件に教友たちの心が揺れたとき、アッラーはかれらが従い続けられるよう安らぎを下されました。教訓：心の安らぎは**アッラーの恵み**であり、人間の努力だけの結果ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

忘れられた木

リドワーンの誓いの木はクルアーンに述べられています。しかしアッラーはその英知によって、その木を**忘れられたもの**とされ、誓った教友たち自身もそれを見つけられなくなりました。ターリク・ブン・アブドゥッラフマーンは語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4163 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ طَارِقِ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ انْطَلَقْتُ حَاجًّا فَمَرَرْتُ بِقَوْمٍ يُصَلُّونَ قُلْتُ مَا هَذَا الْمَسْجِدُ قَالُوا هَذِهِ الشَّجَرَةُ، حَيْثُ بَايَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْعَةَ الرُّضْوَانِ. فَأَتَيْتُ سَعِيدَ بْنَ الْمُسَيَّبِ فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ سَعِيدٌ حَدَّثَنِي أَبِي أَنَّهُ كَانَ فِيمَنْ بَايَعَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَحْتَ الشَّجَرَةِ، قَالَ فَلَمَّا خَرَجْنَا مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ نَسِينَاهَا، فَلَمْ نَقْدِرْ عَلَيْهَا. فَقَالَ سَعِيدٌ إِنَّ أَصْحَابَ مُحَمَّدٍ صلى الله عليه وسلم لَمْ يَعْلَمُوهَا وَعَلِمْتُمُوهَا أَنْتُمْ، فَأَنْتُمْ أَعْلَمُ.

訳：

ターリク・ブン・アブドゥッラフマーンは言った：**私はハッジに出かけ、礼拝している人々のそばを通った。「これは何のモスクですか」と尋ねると、かれらは「これは、アッラーの使徒 ﷺ がリドワーンの誓いを受けられた木です」と答えた。** 私はサイード・ブン・アル＝ムサイヤブのところへ行き、そのことを伝えた。サイードは言った：私の父は、自分がその木の下でアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てた者の一人だったと私に語った。父は言った：「**翌年に出かけたとき、私たちはそれを忘れてしまい、見つけることができなかった。**」 サイードは言った：「**ムハンマド ﷺ の教友たち自身がそれを知らなかったのに、あなたがたは知っているというのか。あなたがたのほうがよく知っているというのか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← ターリク・ブン・アブドゥッラフマーン ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← その父アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4163 番；第 4162〜4165 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1859 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4163

最も学識あるタービイーンの一人サイード・ブン・アル＝ムサイヤブは、木の場所を知っていると主張する者を穏やかにたしなめました。その下で**誓いを立てた教友たち**でさえ知らなかったのに、どうしてあなたがたにわかるのか、と。

スィーラの注：ウマルとその木

イブン・サアドは、ウマル رضى الله عنه の時代に、人々が誓いの木と思われる一本の木のところへ礼拝に来るようになったため、ウマルが**それを切り倒すよう命じた**と伝えています。崇拝の場となることを恐れたからです。この伝承はよく知られていますが、その伝承経路については学者たちの間で**議論があります**（イブン・ハジャルが『ファトフ・アル＝バーリー』で触れている）。

参照：

イブン・サアド『大列伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース 4163 の注釈。https://sunnah.com/bukhari:4163

教訓：イスラームは**タウヒードの純粋さを守ります**。敬われるのは出来事とアッラーの満悦であって、木の幹ではありません。木が忘れられた英知は、誰もそれを崇拝の場にしないためでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スハイル・ブン・アムルの到着

やがてウスマーンは無事に戻り、クライシュは弁舌に優れた**スハイル・ブン・アムル**を交渉のために送ってきました。かれが来るのを見たアッラーの使徒 ﷺ は、前向きな調子で仰せられました：「**あなたがたの事は容易になった（サフラ）。**」 ― スハイルという名の意味にかけた言葉です（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

アッラーの使徒 ﷺ は**良い名や良いしるしを好まれ**（タファーウル）、縁起を悪く取ること（タタイユル）を禁じられました。「スハイル」（容易なもの）という名の交渉者の到来は、事が容易になるしるしと受け取られたのです。

スィーラの注：スハイル・ブン・アムルとは誰か

スハイルはクライシュの有力者で、雄弁な弁論家でした。バドルの戦いで捕虜になっています（第 9 巻）。スィーラ書は、かれがマッカ解放の日にイスラームに入り、良いムスリムになったと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられた後、マッカの多くの人々が背教しかけたとき、**スハイルは立ち上がって演説し**、かれらの信仰を強めました。のちにかれはシャームでの戦いで殉教しました。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；Wikipedia「Suhayl ibn Amr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Suhayl_ibn_Amr

教訓：今日の敵は、明日の**信仰の兄弟**かもしれません。この和約で「アッラーの使徒」という言葉をかたくなに拒んだ男が、のちにマッカでイスラームを守る者となったのです。

和約の起草

交渉が始まり、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه が書記として呼ばれました。最初の一行から、スハイルは異議を唱えました。アナス رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1784 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا عَفَّانُ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ قُرَيْشًا، صَالَحُوا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فِيهِمْ سُهَيْلُ بْنُ عَمْرٍو فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِعَلِيٍّ اكْتُبْ بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ. قَالَ سُهَيْلٌ أَمَّا بِاسْمِ اللَّهِ فَمَا نَدْرِي مَا بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ وَلَكِنِ اكْتُبْ مَا نَعْرِفُ بِاسْمِكَ اللَّهُمَّ فَقَالَ اكْتُبْ مِنْ مُحَمَّدٍ رَسُولِ اللَّهِ. قَالُوا لَوْ عَلِمْنَا أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ لاَتَّبَعْنَاكَ وَلَكِنِ اكْتُبِ اسْمَكَ وَاسْمَ أَبِيكَ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اكْتُبْ مِنْ مُحَمَّدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ. فَاشْتَرَطُوا عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَنَّ مَنْ جَاءَ مِنْكُمْ لَمْ نَرُدَّهُ عَلَيْكُمْ وَمَنْ جَاءَكُمْ مِنَّا رَدَدْتُمُوهُ عَلَيْنَا فَقَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ أَنَكْتُبُ هَذَا قَالَ نَعَمْ إِنَّهُ مَنْ ذَهَبَ مِنَّا إِلَيْهِمْ فَأَبْعَدَهُ اللَّهُ وَمَنْ جَاءَنَا مِنْهُمْ سَيَجْعَلُ اللَّهُ لَهُ فَرَجًا وَمَخْرَجًا.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えている：**クライシュは預言者 ﷺ と和約を結び、その中にスハイル・ブン・アムルがいた。預言者 ﷺ はアリーに「書きなさい：ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム（慈悲あまねく慈悲深きアッラーの御名において）」と仰せられた。**スハイルは言った：「ビスミッラーについては、ビスミッラーヒッラフマーニッラヒームが何なのか私たちは知らない。私たちの知っているもの、ビスミカッラーフンマ（アッラーよ、あなたの御名において）と書け。」使徒は「書きなさい：アッラーの使徒ムハンマドより」と仰せられた。かれらは言った：「もしあなたがアッラーの使徒だと知っていたら、あなたに従っていただろう。あなたの名とあなたの父の名を書け。」預言者 ﷺ は仰せられた：**「書きなさい：アブドゥッラーの子ムハンマドより。」** かれらは

預言者 ﷺ に次の条件をつけた：**あなたがたのうち私たちのもとに来た者を、私たちは返さない。だが私たちのうちあなたがたのもとに来た者は、あなたがたが私たちに返さなければならない。** 教友たちは尋ねた：「アッラーの使徒よ、これを書くのですか。」使徒は仰せられた：「**そうだ。私たちのうち、かれらのもとへ行った者は、アッラーがその者を遠ざけられたのだ。かれらのうち、私たちのもとへ来た者には、アッラーがゆとりと出口を与えてくださるだろう。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アッファーン・ブン・ムスリム ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、フダイビーヤの和約の章、ハディース第 1784 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1784

アル＝バラーウの伝承では、アリーは敬意から「**アッラーの使徒**」という言葉を消すのを拒みました。そこでアッラーの使徒 ﷺ はその場所を示すよう求め、**ご自身の手でそれを消されました**（『サヒーフ・ブハーリー』2699）。

スハイルの異議	アッラーの使徒の答え ﷺ
「慈悲あまねく慈悲深き御方」を知らない	「ビスミカッラーフンマ」を受け入れる
「アッラーの使徒」を認めない	「アブドゥッラーの子ムハンマド」を受け入れる
アリーが消すのを拒む	使徒が自ら消す
原則は変わらない	「アッラーにかけて、たとえあなたがたがわたしを嘘つきと呼んでも、わたしはアッラーの使徒である」

アッラーの使徒 ﷺ は**形式では柔軟**でありながら、**本質では揺るぎません**でした。「ビスミカッラーフンマ」もアッラーの御名を唱えており、「アブドゥッラーの子

ムハンマド」も真実です。使徒は信条を犠牲にせず、和平を実現するために言葉の要求だけを手放されたのです。

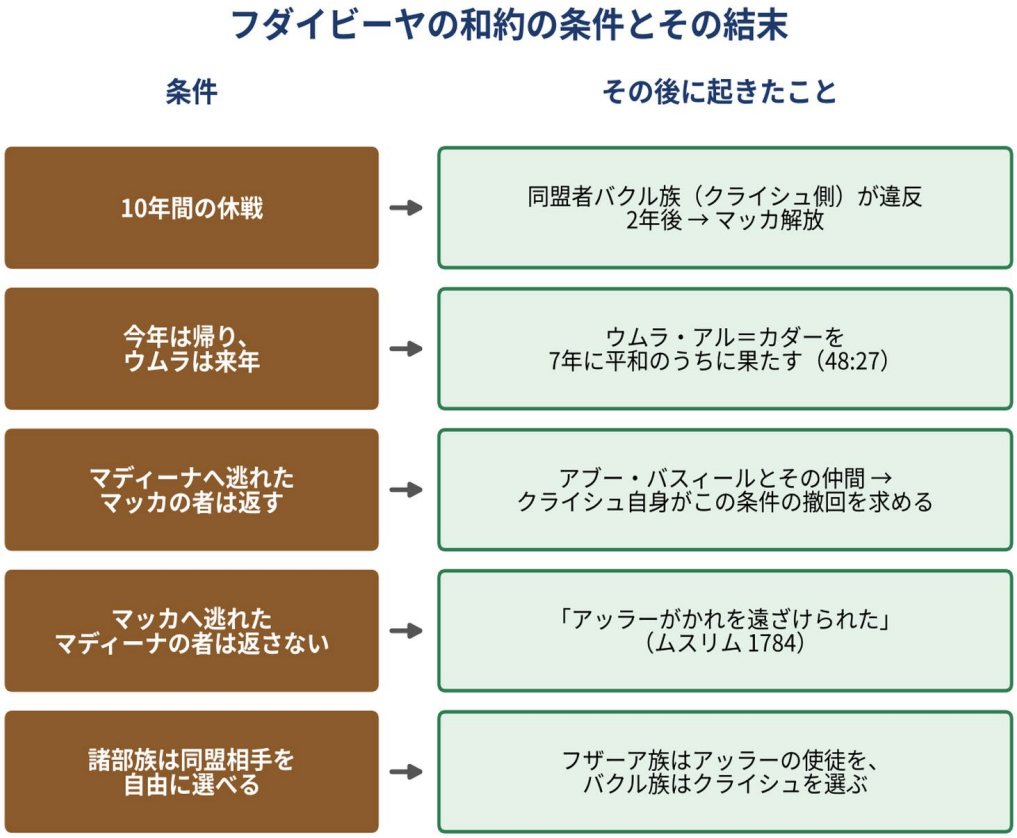
読み書きをしない預言者

アル＝バラーウの伝承は、アッラーの使徒 ﷺ が「アッラーの使徒」という言葉の場所を示すよう求められたと述べています。使徒は**読み書きをされなかった**（ウンミー）からです。アッラーは使徒を「文字を知らない預言者である使徒」（高壁章 7:157）と形容されました。この特質は、クルアーンが**使徒の著作ではない**ことの証拠です。読まない人が、あれほど美しい書物を生み出すことはできないからです。

そのとき書記を務めたのはアリーでした。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は教友たちの**技能を尊重し**、ふさわしい者に務めを任せ、ご自身は交渉を導かれました。

和約の条件

最終的に合意された和約の条件は、**一方に偏っている**ように見えました。教友たちはひどく悔しい思いをしました。しかし歴史は、そのどの条件も最後にはイスラームに益をもたらしたことを証明しています：



条件は『サヒーフ・ブハーリー』2731、『サヒーフ・ムスリム』1784、スィーラ書による。不利に見えた条件は、最後にはムスリムに益をもたらした。

図 3：フダイビーヤの和約の条件とその結末。

最も重い条件は、**マディーナへ逃れたマッカの者は返さなければならない**が、その逆はない、というものでした。アッラーの使徒 ﷺ はその英知を説明されました：不信仰へ逃げた者はアッラーが遠ざけられた者であり、イスラームへ来る者には**アッラーが出口を与えてくださる**のだ、と（『サヒーフ・ムスリム』1784、第 12 章）。

この **10 年間**の休戦は、ダアワの扉を開きました。アッ＝ズフリーは言いました：イスラームにおいてそれ以前に、フダイビーヤより大きな勝利はなかった。戦いが止

み、人々が安心して出会うようになると、**かれらはイスラームについて語り合い**、それを聞いた分別ある者で、イスラームに入らない者はいなかったからである（イブン・イスハークの伝承）。

教訓：ある決定を**第一印象**だけで判断してはなりません。不利に見える条件が、まだ見えていない勝利を秘めていることもあるのです。

足かせのアブー・ジャンダル

和約がまだ書かれている最中で**締結されていなかった**とき、たいへん胸の痛む出来事が起きました。スハイル・ブン・アムル自身の息子で、イスラームに入ったために家族に鎖でつながれていた**アブー・ジャンダル**が、足かせをつけたままよろめきながらやって来て、ムスリムたちのただ中に身を投げたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

スハイルは言いました：「**ムハンマドよ、これがあなたに返すよう求める最初の者だ。**」 アッラーの使徒 ﷺ は交渉しようとされました：「私たちはまだ和約を書き終えていない。」スハイルは譲りません：「それなら、私は何についてもあなたと和平を結ばない。」アブー・ジャンダルは叫びました：「**ムスリムの皆さん、ムスリムとして来た私が、多神教徒のもとへ返されるのですか。私の受けた仕打ちが見えないのですか。**」 — かれはアッラーのためにひどい拷問を受けていたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

> **スィーラの注：アブー・ジャンダルへの言葉**
>
> スィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ がかれにこう仰せられたと伝えています：「**アブー・ジャンダルよ、忍耐し、報いを期待しなさい。アッラーはあなたと、あなたとともにいる弱い者たちに、ゆとりと出口を与えてくださる。私たちはかれらと約束を交わしたのであり、かれらを裏切ることはない。**」
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『ムスナド・アフマド』。

教訓：**約束を守ること**は、最もつらい状況においても犠牲にされない原則です。そしてアブー・ジャンダルの忍耐は無駄になりませんでした — アッラーはほどなくかれに出口を開かれたのです（第 20 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウマルの動揺

アブー・ジャンダルの出来事と和約の条件は、**ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه をひどく動揺させました。サフル・ブン・フナイフ رضى الله عنه はのちにスィッフィーンで人々にこの出来事を語り、**自分の意見を疑う**ことの教訓としました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3182 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ آدَمَ، حَدَّثَنَا يَزِيدُ بْنُ عَبْدِ الْعَزِيزِ، عَنْ أَبِيهِ، حَدَّثَنَا حَبِيبُ بْنُ أَبِي ثَابِتٍ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبُو وَائِلٍ، قَالَ كُنَّا بِصِفِّينَ فَقَامَ سَهْلُ بْنُ حُنَيْفٍ فَقَالَ أَيُّهَا النَّاسُ اتَّهِمُوا أَنْفُسَكُمْ فَإِنَّا كُنَّا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ، وَلَوْ نَرَى قِتَالاً لَقَاتَلْنَا، فَجَاءَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَلَسْنَا عَلَى الْحَقِّ وَهُمْ عَلَى الْبَاطِلِ فَقَالَ بَلَى. فَقَالَ أَلَيْسَ قَتْلاَنَا فِي الْجَنَّةِ وَقَتْلاَهُمْ فِي النَّارِ قَالَ بَلَى. قَالَ فَعَلَى مَا نُعْطِي الدَّنِيَّةَ فِي دِينِنَا أَنَرْجِعُ وَلَمَّا يَحْكُمِ اللَّهُ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ فَقَالَ ابْنُ الْخَطَّابِ، إِنِّي رَسُولُ اللَّهِ، وَلَنْ يُضَيِّعَنِي اللَّهُ أَبَدًا. فَانْطَلَقَ عُمَرُ إِلَى أَبِي بَكْرٍ فَقَالَ لَهُ مِثْلَ مَا قَالَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ إِنَّهُ رَسُولُ اللَّهِ، وَلَنْ يُضَيِّعَهُ اللَّهُ أَبَدًا. فَنَزَلَتْ سُورَةُ الْفَتْحِ، فَقَرَأَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى عُمَرَ إِلَى آخِرِهَا. فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَوَفَتْحٌ هُوَ قَالَ نَعَمْ.

訳：

アブー・ワーイルは言った：私たちがスィッフィーンにいたとき、サフル・ブン・フナイフが立ち上がって言った：「**人々よ、自分の意見を疑いなさい！私たちはフダイビーヤの日、アッラーの使徒 ﷺ とともにいたが、もし戦うべきだと考えたなら、私たちは戦っていただろう。** ウマル・ブン・アル＝ハッターブがやって来て言った：『アッラーの使徒よ、私たちは真理の上にあり、かれらは虚偽の上にあるのではありませんか。』使徒は『そのとおりだ』と答えられた。かれは言った：『私たちのうち殺された者は楽園に、かれらのうち殺された者は火獄にいるのではありませんか。』使徒は『そのとおりだ』と答えられた。かれは言った：『それならなぜ、私たちは宗教において屈辱を受け入れ、アッラーが私たちとかれらの間を裁かれないうちに帰るのですか。』使徒は仰

せられた：『**イブン・アル＝ハッターブよ、わたしはアッラーの使徒であり、アッラーは決してわたしを見捨てられない。**』 ウマルはアブー・バクルのところへ行き、同じことを言った。するとアブー・バクルは答えた：『**かの御方はアッラーの使徒であり、アッラーは決してかの御方を見捨てられない。**』 そして勝利章が下り、アッラーの使徒 ﷺ はそれを最後までウマルに読み聞かせられた。ウマルは尋ねた：『アッラーの使徒よ、これは勝利なのですか。』使徒は答えられた：『**そうだ。**』」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ヤフヤー・ブン・アーダム ← ヤズィード・ブン・アブドゥルアズィーズ ← その父アブドゥルアズィーズ・ブン・スィヤーフ ← ハビーブ・ブン・アビー・サービト ← アブー・ワーイル ← サフル・ブン・フナイフ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、ハディース第 3182 番；第 4844 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1785 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3182

注目してください。**アブー・バクル**の答えは、聞いてもいないのに、アッラーの使徒 ﷺ の答えと一言一句同じでした。だからこそアブー・バクルは**アッ＝スィッディーク**（真実を認める者）と呼ばれるのです。その心はアッラーの使徒 ﷺ の心と調和していました。

ウマルはのちに自分の言葉を悔いました。別の伝承でかれは言っています：「**それゆえ私は（その償いとして）多くの善行をした**」 — 施しをし、断食をし、礼拝をし、奴隷を解放したのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

教訓：**誠実な熱意**も**啓示**に従わなければなりません。私たちの意見は、どれほど善意からであっても誤ることがあります。だからこそ、それをアッラーとその使徒の導きで量るのです。

調和した心

アッラーの使徒 ﷺ はかつて仰せられました：「**もしわたしが主のほかに親友（ハリール）をとることができるなら、アブー・バクルをとったであろう。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3656）。フダイビーヤではこの位がはっきりと表れました。ウマルが揺れていたとき、アブー・バクルは落ち着いていました。アッラーの使徒 ﷺ へのかれの確信は、目に見えるものに左右されなかったからです。

教訓：強い信仰とは、アッラーとその使徒の決定が私たちの理屈に反するように見えるときにも**揺るがない**信仰です。アブー・バクルはイスラーの出来事をためらわずに真実と認めましたが（第 6 巻）、フダイビーヤも同じように受け入れたのです。

ウンム・サラマの助言

和約が結ばれると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに命じられました：「**立って、犠牲の動物を屠り、それから頭を剃りなさい。**」 しかし、使徒が三度繰り返されても、**誰一人立ち上がりませんでした。**かれらは背いたのではなく、あまりの衝撃と悲しみに打ちのめされ、啓示が状況を変えてくれることをまだ望んでいたのかもしれません（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使徒は妻の**ウンム・サラマ** رضي الله عنها のもとに入り、起きたことを話されました。ウンム・サラマはたいへん賢明な助言をしました：「**アッラーの預言者よ、そうお望みですか。外に出て、誰とも一言も話さずに、ご自分のラクダを屠り、床屋を呼んで頭を剃らせてください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使徒はそのとおりにされました。使徒が屠り、頭を剃るのを見ると、**教友たちは立ち上がって屠り**、互いに頭を剃り始めました。深い悲しみのあまり、互いを傷つけそうになるほどでした（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

ウンム・サラマの助言	その英知
「外に出てください」	指導者は待つのではなく、前に出る
「一言も話さずに」	繰り返す命令より、手本のほうが強い
「屠り、頭を剃ってください」	決定的な行動が、決定を変える望みを断つ
アッラーの使徒 ﷺ が受け入れる	使徒は一人の女性の助言に耳を傾けられた

教訓：**手本**は言葉よりも効果があります。そしてアッラーの使徒 ﷺ は**妻の意見**を大切にされました — ウンム・サラマの助言が、教友たちを不服従から救ったのです。

タハッルル：犠牲を屠り、髪を剃る

教友たちはイフラームに入っていましたが、カアバにたどり着くことを**阻まれました**。かれらの規定はどうなるのでしょうか。アッラーはクルアーンの中でそれを明らかにされていました：

「アッラーのために、ハッジとウムラを全うしなさい。もし（それを）阻まれたならば、容易に得られる犠牲を捧げなさい」『イブン・カスィール注釈』2:196。

この規定は**イフサール** — ハッジやウムラを全うすることを阻まれること — として知られています。阻まれた者は、阻まれた場所で犠牲を屠り、頭を剃るか髪を短くしてイフラームを解きます。学者たちはこの規定を、フダイビーヤの出来事から直接導き出しました。

アッラーの使徒 ﷺ は祈られました：**「アッラーよ、頭を剃った者たちに慈悲を。」** 人々は尋ねました：「アッラーの使徒よ、髪を短くした者たちには？」使徒は繰り返され、三度目か四度目に「そして髪を短くした者たちにも」と仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』1727）。スィーラの伝承の中には、この祈りがフダイビーヤで唱えられたと述べるものがあります。

フダイビーヤから生まれた規定	説明
イフサール	ウムラを全うすることを阻まれる → 屠ってタハッルル
頭を剃るほうが優れている	剃った者への三度の慈悲の祈り
犠牲の共有	ラクダまたは牛 1 頭を 7 人で（『サヒーフ・ムスリム』1318）
カダーのウムラ	翌年にウムラをやり直した

ジャービル رضي الله عنه は言った：**「フダイビーヤの年、私たちはアッラーの使徒 ﷺ とともに、ラクダ1頭を7人で、牛1頭を7人で屠った。」**（『サヒーフ・ムスリム』

1318）。教訓：イスラームの法は**容易にする**ものであり、どの試練も今日に至るまでウンマに益となる規定をもたらしました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

勝利章の啓示

重い心でマディーナへ帰る途中、アッラーはすべてを変える啓示を下されました。

まだ自分のことを案じていたウマル رضى الله عنه は語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4177 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَسْلَمَ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَسِيرُ فِي بَعْضِ أَسْفَارِهِ، وَعُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ يَسِيرُ مَعَهُ لَيْلاً، فَسَأَلَهُ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ عَنْ شَيْءٍ فَلَمْ يُجِبْهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ سَأَلَهُ فَلَمْ يُجِبْهُ، ثُمَّ سَأَلَهُ فَلَمْ يُجِبْهُ وَقَالَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ ثَكِلَتْكَ أُمُّكَ يَا عُمَرُ، نَزَرْتَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثَلاَثَ مَرَّاتٍ، كُلُّ ذَلِكَ لاَ يُجِيبُكَ. قَالَ عُمَرُ فَحَرَّكْتُ بَعِيرِي ثُمَّ تَقَدَّمْتُ أَمَامَ الْمُسْلِمِينَ، وَخَشِيتُ أَنْ يَنْزِلَ فِيَّ قُرْآنٌ، فَمَا نَشِبْتُ أَنْ سَمِعْتُ صَارِخًا يَصْرُخُ بِي ـ قَالَ ـ فَقُلْتُ لَقَدْ خَشِيتُ أَنْ يَكُونَ نَزَلَ فِيَّ قُرْآنٌ. وَجِئْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَقَالَ لَقَدْ أُنْزِلَتْ عَلَىَّ اللَّيْلَةَ سُورَةٌ لَهِيَ أَحَبُّ إِلَىَّ مِمَّا طَلَعَتْ عَلَيْهِ الشَّمْسُ، ثُمَّ قَرَأَ {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا}.

訳：

アスラムは伝えている：**アッラーの使徒 ﷺ はある旅の途中で進んでおられ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブが夜、使徒とともに進んでいた。ウマルは何かを尋ねたが、使徒は答えられなかった。もう一度尋ねたが答えられず、さらに尋ねたが、やはり答えられなかった。** ウマルは（自分に）言った：「ウマルよ、お前は何ということをしたのか！アッラーの使徒 ﷺ に三度もしつこく迫り、そのたびに答えていただけなかったではないか。」ウマルは言った：私はラクダを進めてムスリムたちの列の先頭に出た。私について何かクルアーンの節が下るのではないかと恐れたのだ。ほどなく、誰かが私を呼ぶ声が聞こえた…。私はアッラーの使徒 ﷺ のもとに行ってあいさつすると、使徒は仰せられた：**「今夜、わたしに一つの章が下された。それは太陽が照らすすべてのもの**

よりも、わたしにとって愛しい。」 そして使徒は読まれた：**「本当にわれは、あなたに明白な勝利を授けた。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← ザイド・ブン・アスラム ← その父アスラム ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4177 番；第 4833 番と第 5012 番にも。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4177

「本当にわれは、あなた（ムハンマド）に明白な勝利を授けた」『イブン・カスィール注釈』48:1。

ウマルの態度に注目してください。かれは**恐れて**いました。アッラーの使徒 ﷺ にしつこく迫ったことで、自分をとがめる節が下るのではないかと。しかし下ったのは**吉報**でした。アッラーの使徒 ﷺ はこの章を、**太陽が照らすすべてのもの**—つまり全世界—よりも愛しいと形容されたのです。

勝利章の節	フダイビーヤとの関係
48:1–3	明白な勝利；赦し；力強い助け
48:4	信者たちの心に安らぎが下される
48:10、18	リドワーンの誓い；アッラーの満悦
48:24–26	アッラーが双方の手を押しとどめる；ジャーヒリーヤの熱情
48:27	真実の夢が実現する
48:29	教友たちの姿は力強く育つ作物のよう

作物のたとえ

勝利章は、教友たちについての美しいたとえで結ばれています：「**芽を出して、それを強め、太くなってその茎の上にまっすぐに立つ作物のように**」（勝利章 48:29）。この節は、このたとえが**福音書**にあると述べています。

フダイビーヤの教友たちは**小さな若芽**のようでした — カアバから阻まれた 1,400 人です。しかしその若芽から、たくましく見事なイスラームの木が育ちました。教訓：誠実に植えられたものなら、小さな始まりを軽んじてはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

それは勝利なのか？

教友たちはなお疑問に思っていました。この和約がどうして**勝利**になりうるのか。

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه がその節の意味を説明しています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4172 番

حَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ إِسْحَاقَ، حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ عُمَرَ، أَخْبَرَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا} قَالَ الْحُدَيْبِيَةُ. قَالَ أَصْحَابُهُ هَنِيئًا مَرِيئًا فَمَا لَنَا فَأَنْزَلَ اللَّهُ {لِيُدْخِلَ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ جَنَّاتٍ} قَالَ شُعْبَةُ فَقَدِمْتُ الْكُوفَةَ فَحَدَّثْتُ بِهَذَا كُلِّهِ عَنْ قَتَادَةَ ثُمَّ رَجَعْتُ فَذَكَرْتُ لَهُ فَقَالَ أَمَّا {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ} فَعَنْ أَنَسٍ، وَأَمَّا هَنِيئًا مَرِيئًا فَعَنْ عِكْرِمَةَ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、**「本当にわれは、あなたに明白な勝利を授けた」**という節について言った：「**（それは）フダイビーヤのことである。**」使徒の教友たちは言った：「おめでとうございます。では私たちには何があるのですか。」するとアッラーは下された：「**（それは）アッラーが男女の信者たちを楽園に入らせるためである…**」シュウバは言った：「インナー・ファタフナー・ラカ」の部分はアナスから、「おめでとうございます」の部分はイクリマからである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・イスハーク ← ウスマーン・ブン・ウマル ← シュウバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4172 番；第 4834 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4172

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه も言っています：**「あなたがたは勝利とはマッカの解放のことだと思っている…だが私たちは、フダイビーヤの日のリドワーンの誓いこそが勝利だと考えている。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4150、第 4

章）。それを目撃した人々にとって、フダイビーヤはその後のすべての勝利への**扉**だったのです。

勝利の証拠	説明
承認	クライシュがマディーナを対等な当事者として交渉した
ダアワの安全	人々が恐れなくイスラームについて出会い、語り合った
ムスリムの増加	フダイビーヤで 1,400 人 → 2 年後のマッカ解放で約 1 万人（スィーラ書）
有力者の入信	ハーリド・ブン・アル＝ワリードとアムル・ブン・アル＝アースがイスラームに入る（8 年）
王たちへの書簡	アッラーの使徒 ﷺ がカイサル、キスラーなどにダアワの書簡を送る

教訓：**勝利はいつも剣によって来るとは限りません。**ときには、人々の心を真理に開く平和こそが最大の勝利なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

王たちへの書簡

フダイビーヤの後の平和によって、アッラーの使徒 ﷺ は**ダアワの書簡を送る**ことができました — 大国の支配者たちへです。『サヒーフ・ブハーリー』冒頭のハディースは、ローマ皇帝**ヘラクレイオス**が、アッラーの使徒 ﷺ についてアブー・スフヤーンに尋ねた様子を伝えています。それはアブー・スフヤーンがシャームにいた「**休戦の期間中**」、すなわちクライシュとアッラーの使徒 ﷺ の間の休戦中のことでした（『サヒーフ・ブハーリー』7）。

フダイビーヤの和約がなければ、アブー・スフヤーンのシャームへの交易の旅も、ヘラクレイオスとの対話も起こらなかったかもしれません。教訓：**平和はダアワの扉を開きます**。戦いでは開けない扉をです。

アブー・バスィール：約束された出口

マディーナに戻って間もなく、マッカのムスリムで**アブー・バスィール**という男が、アッラーの使徒 ﷺ のもとへ逃れて来ました。クライシュはかれを連れ戻すために二人の男を送り、アッラーの使徒 ﷺ は、**和約を守って**、かれをかれらに引き渡されました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

道中でアブー・バスィールは逃れることに成功し、マディーナに戻って来ました。アッラーの使徒 ﷺ はほのめかすように仰せられました：「**その母は災いだ！仲間がいれば、かれは戦いの火をつけるだろう。**」 アブー・バスィールは、また返されることを悟り、サイフ・アル＝バフルの**海岸地帯**へ向かいました。のちにアブー・ジャンダルも逃れてかれに加わり、マッカの多くのムスリムが続いて一つの集団となり、シャームへ向かう**クライシュの隊商の行く手をふさぐ**ようになりました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

ついに**クライシュ自身**が、アッラーの使徒 ﷺ に書簡を送り、アッラーと血縁の絆にかけて、かれらをマディーナに受け入れるよう懇願しました：「あなたのもとに来た者は安全である。」**最も重い条件は、それを求めた者たち自身によって取り消されたのです。** そしてアッラーは 48:24–26 の節を下されました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

これこそが「**ゆとりと出口**」— アッラーの使徒 ﷺ が『サヒーフ・ムスリム』1784 で約束されたもの — でした。教訓：忍耐と**約束を守ること**は、ムスリムが一度も和約を破ることなく、最後には解決を実らせたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

移住してきた女性たち

フダイビーヤの和約は、マッカから逃れた**男性**を返さなければならないと定めていました。ムスリムの女性たちがマディーナへ移住して来たとき、アッラーはかの女たちのための特別な規定を下されました：

「信仰する者たちよ、信者の女たちが移住してあなたがたのもとに来たならば、かの女たち（の信仰）を試しなさい。アッラーはかの女たちの信仰を最もよくご存じである。もしかの女たちが信者であるとわかったならば、不信仰者たちのもとへ帰してはならない」『イブン・カスィール注釈』60:10。

移住した女性の中に**ウンム・クルスーム・ビント・ウクバ・ブン・アビー・ムアイト**がいました。家族がかの女を連れ戻しに来ましたが、この節が下った後、アッラーの使徒 ﷺ はかの女を返されませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』2711〜2712）。学者たちは、和約の文言は**男性**を指しており、女性は返されればより大きな危険にさらされたと説明しています。

教訓：イスラームは信仰を選んだ**女性を守り**、その選択を尊重します。この節にある信仰の試しも、決定が盲目的にではなく**公正かつ慎重に**なされたことを示しています。

フダイビーヤからマッカ解放へ

10年間の休戦は、わずか約**2年**しか続きませんでした。スィーラ書によれば、クライシュの同盟者バクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族を、クライシュからの武器と人員の援助を受けて襲いました。和約は、ムスリムではなく**クライシュによって破られた**のです。

その違反は、ヒジュラ暦8年の**マッカ解放**へとつながり、それはほとんど流血なしに成し遂げられました。教訓：約束を守る側は最後に**アッラーによって勝利を与えられ**、約束を裏切る側は自らを損なうのです（勝利章 48:10）。

交渉の技

フダイビーヤは、和平についてのアッラーの命令を実行した最良の例です：「**もしかれらが和平に傾くならば、あなたもそれに傾き、アッラーを信頼しなさい**」『イブン・カスィール注釈』8:61。

社会科学の注：原則に基づく交渉

ハーバード交渉プロジェクトは、**原則に基づく交渉**という方法を、有名な著書『**Getting to Yes**』（フィッシャー、ユーリー、パットン）で紹介しました。その主な原則には、**人と問題を切り離す**こと、**立場ではなく利害に焦点を当てる**こと、そして**双方に利益となる選択肢をつくる**ことがあります（Harvard PON）。

現代の交渉の原則	フダイビーヤでは
利害に焦点を当てる	本当の利害は平和とダアワであり、「アッラーの使徒」という言葉ではない
人と問題を切り離す	「あなたがたの事は容易になった」— スハイルを丁重に扱う
最善の代替案を知る	戦う用意はあった（誓い）が、和平を選んだ
長期的な視点	10 年の休戦 → ムスリムの大幅な増加

現代の交渉理論より 1,400 年以上も前に、アッラーの使徒 ﷺ はこれらの原則を実践されていました — しかも理論書にはない一つのことを加えて：**アッラーへの信頼（タワックル）**です。教訓：交渉における本当の力は、すべての言葉で勝つことではなく、**目標の明確さ**と**忍耐**にあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

家庭と仕事の中のフダイビーヤ

フダイビーヤの原則は、日々の生活の中でも実践できます。**家庭**では、より大きな調和を守るために、小さなことで譲る必要があるときもあります。**仕事**では、妥協できない原則と、交渉できる技術的な事柄とを区別する必要があります。

アッラーの使徒 ﷺ も、行き詰まったときに**妻**の助言に耳を傾けられました（第 16 章）。教訓：良い交渉は家庭から始まります — **耳を傾け、忍耐し、先を見通す**ことによって。

フダイビーヤの物語の典拠

フダイビーヤの物語は、位置づけの異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。この電子書籍はその三つを区別し、読者が**何が確かなこと**で、**何がよく知られていること**なのかを知ることができるようにしています：

フダイビーヤの物語の典拠

クルアーン（6）

- 明白な勝利（48:1）
- アッラーの御手はかれらの手の上にある（48:10）
- 木の下でアッラーは満悦された（48:18）
- ジャーヒリーヤの熱情と敬虔の言葉（48:26）
- 真実の夢（48:27）
- 移住してきた女性たち（60:10）

真正なハディース（9）

- あふれた井戸；指の間からの水
- 死を誓う誓約；1,400人
- 「地上で最も優れた人々」
- 和約の起草；条件
- ウマルの動揺
- ウンム・サラマの助言；アブー・ジャンダル；アブー・バスィール
- 勝利章の啓示
- 忘れられた木
- 木の人々は地獄に入らない

スィーラ書（3）

- ウスマーン殺害の噂（詳細）
- マッカ解放のときの軍勢の数
- ウマルが木を切らせた話

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：この電子書籍におけるフダイビーヤの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
夢；誓い；満悦；安らぎ；タハッルル；移住した女性たち	クルアーン（雌牛章 2:196；勝利章 48；試問される女章 60:10）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

物語	典拠と等級
旅；アル＝カスワー；使者たち；アブー・ジャンダル；ウンム・サラマ；アブー・バスィール	『サヒーフ・ブハーリー』2731 — サヒーフ
井戸；指の間からの水；死を誓う誓約；1,400 人；木；勝利章	『サヒーフ・ブハーリー』4150〜4177、3182、3698 — サヒーフ
和約の起草；木の人々；犠牲の共有	『サヒーフ・ムスリム』1784、2496、1318 — サヒーフ
ウスマーンの噂（詳細）；ウマルが木を切らせた話；アッ＝ズフリーの言葉	スィーラ書（イブン・イスハーク、イブン・サアド）——有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

残った者たちと隠れた者たち

第 18 章では、勝利章の主な節 — 明白な勝利、安らぎ、リドワーンの誓い、真実の夢、作物のたとえ — を説明しました。しかしこの章は、あまり語られることのない二つの集団にも触れています。第一の集団は、アッラーの使徒 ﷺ とともに出発することを拒んだベドウィンたちです。第二の集団は、マッカに隠れていた信者たちで、かれらはその日アッラーが戦いを押しとどめられた理由の一つでした。

節	簡単な意味	教訓
48:11	残ったベドウィンは言い訳をした：財産と家族に忙しかったと；赦しを求めた	舌は心にないことを言う
48:12	かれらは、アッラーの使徒 ﷺ と信者たちが二度と家族のもとへ戻らないと思った	アッラーの約束についての悪い推測
48:15	ムスリムが戦利品を取りに行くとき、かれらはついて来ようとした；アッラーはそれを退けられた	犠牲なしに成果を望む
48:16	かれらは非常に強い民と戦うよう呼びかけられる；従えば報いを受ける	悔悟の扉はまだ開いている
48:17	盲人、足の不自由な者、病人には罪がない	本当の事情は受け入れられる
48:20–21	アッラーは多くの戦利品と、まだ手にできないもう一つを約束された	段階的に果たされる約束
48:24	アッラーはマッカの谷で双方の手を押しとどめられた	和平はアッラーの決定
48:25	もしあなたがたの知らない男女の信者がマッカにいなかったなら…	信者の血を守る

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

残った者たちの言い訳

アッラーの使徒 ﷺ が人々にウムラへの出発を呼びかけられたとき、マディーナ周辺のベドウィンの部族の一部はついて来ることを拒みました。かれらは、ムスリムがクライシュに滅ぼされると思っていたのです。アッラーはかれらの心の内を明かされました：「かれらは心にないことを舌で言う」（勝利章 48:11）。注釈者たちはこの文脈でいくつかの部族の名を挙げていますが、それはその部族の一人ひとりが残ったという意味ではありません。ベドウィンの部族からも多くの教友がフダイビーヤに参加していたからです（『イブン・カスィール注釈』48:11）。

ハイバルの戦利品を取りに行く時が来ると、この人々はついて行こうとしました。アッラーはアッラーの使徒 ﷺ に、かれらを退けるよう命じられました（勝利章 48:15）。ハイバルの財はフダイビーヤの人々に特別に約束されていたからです。しかしアッラーは扉を閉ざされませんでした。かれらは「大きな力を持つ民」と戦うよう呼びかけられ、もし従うなら、アッラーは良い報いを与えられるのです（勝利章 48:16）。その民が誰かについて、注釈者たちの意見は分かれています。ハワーズィン族とサキーフ族だという者、ハニーファ族だという者、ペルシアとローマだという者がいます（イブン・カスィール）。これは注釈者たちの議論であって、決定的な典拠ではありません。

マッカに隠れていた信者たち

第 25 節は、アッラーが戦いを押しとどめられた英知の一つを説明しています。当時マッカには、信仰を隠している男女の信者がいました。もし戦いが起きれば、ムスリムは知らずにかれらを殺し、後悔と恥を負ったかもしれません。アッラーは、もしかれらが分かれていたなら、不信仰者たちを痛ましい懲罰で罰したであろうと仰せられています（勝利章 48:25；『イブン・カスィール注釈』48:25）。

アブー・ジャンダル（第 14 章）とアブー・バスィール（第 20 章）は、マッカで虐げられていたムスリムの例です。名の知られていない人々は、ほかにも大勢いました。アッラーは和平によってかれらの血を守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

これらの節は二つのことを教えています。第一に、舌の上の甘い言い訳はアッラーを欺くことはできません。量られるのは、必要なときに犠牲を払う覚悟です。第二に、弱く見える決定が、私たちの知らない人々の命を守っているのかもしれません。アッラーは、私たちに見えないものを見ておられるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤにおける協議と諸規定

フダイビーヤは和約の物語であるだけではありません。それは今日に至るまで法学者たちが論じている諸規定の源でもあります。この章では、まだ触れていない二つの出来事 — フダイビーヤに着く前の協議と、カアブ・ブン・ウジュラの話 — をまとめ、この出来事に基づく諸規定を整理します。

決定の前に協議する

ハディース：「私に意見を述べなさい」

アル＝ミスワル・ブン・マフラマとマルワーンは伝えています。アッラーの使徒 ﷺ がガディール・アル＝アシュタートに着かれたとき、偵察者が来て、クライシュが使徒をカアバから阻むために軍勢を集めたと知らせました。使徒は「人々よ、私に意見を述べなさい」と仰せられました。アブー・バクル رضى الله عنه は言いました：「アッラーの使徒よ、あなたはこの館を訪れるために出て来られたのであり、誰かを殺したり戦ったりするためではありません。ですから、そこへ進んでください。私たちを阻む者がいれば、その者と戦いましょう。」使徒は「アッラーの御名において進め」と仰せられました。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179。

アッラーの使徒 ﷺ は啓示を受けておられましたが、それでも教友たちに意見を求められました。アブー・バクルは旅の本来の目的 — 戦いではなくウムラ — を挙げて答えました。この助言は、のちに使徒が和平の道を選ばれたことと一致しています。ウンム・サラマの助言（第 16 章）とあわせて、フダイビーヤでは出来事の方向を決めた二つの協議があったのです。

カアブ・ブン・ウジュラと剃髪の償い

ハディース：カアブの頭のシラミ

カアブ・ブン・ウジュラ رضى الله عنه は、フダイビーヤでイフラームの状態のまま、アッラーの使徒 ﷺ とともにいたとき、頭からシラミが落ちていたと伝えています。使徒はシラミがかれを苦しめているかと尋ね、頭を剃るよう命じられました。そして次の節が下りました：「あなたがたのうち病気の者、または頭に苦痛のある者は（頭を剃ってもよいが）、断食か施しか犠牲で償いをしなければならない。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4159；『サヒーフ・ブハーリー』1814 にも；節は雌牛章 2:196。

同じハディースの別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ が償いの三つの選択肢を説明されています：3 日間の断食、6 人の貧者に食事を与えること、または羊 1 頭を屠ることです（『サヒーフ・ブハーリー』1814）。ちょっとした病にかかったごく普通の一人の教友が、今日に至るまで何百万ものハッジとウムラの巡礼者が実践する規定の下る理由となったのです。

フダイビーヤに基づく諸規定

規定	フダイビーヤからの典拠	備考
大きな決定の前に協議する	『サヒーフ・ブハーリー』4178〜4179；ウンム・サラマの助言	本章と第 16 章
イフラーム中にやむを得ず頭を剃った場合の償い	雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』4159	断食、施し、または犠牲
イフサール：阻まれたときのタハッルル	雌牛章 2:196	第 17 章
ラクダや牛の犠牲を共有する	『サヒーフ・ムスリム』1318	第 17 章

規定	フダイビーヤからの典拠	備考
非ムスリムとの和平条約	戦利品章 8:61；『サヒーフ・ブハーリー』2731	益（マスラハ）がある場合に許される
重くても約束を守る	アブー・ジャンダルとアブー・バスィールが返された	第 14 章と第 20 章
条件によって禁じられたものを許すことはできない	信者の女性は返されない（試問される女章 60:10）	第 21 章
休戦の期間	10 年間の休戦（スィーラ書）	法学者の見解は分かれる

休戦の期間について、イマーム・シャーフィイーを含む一部の法学者は、フダイビーヤの 10 年を最長期間としています。一方、ほかの法学者は、その期間はムスリムの益（マスラハ）によるとしています。これはイジュティハードの議論であり、法学書がくわしく説明しています。

教訓

フダイビーヤは、イスラームの諸規定が現実の生活から生まれることを教えています。病気の一人の教友、阻まれた巡礼者の一団、そして難しい和約です。シャリーアは容易にするために来たのであって、重荷を負わせるためではありません。そして最も高貴な指導者でさえ、まわりの人々に意見を求められたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤの和約の人物

フダイビーヤのハディースには、さまざまな部族の多くの人物が登場します。下の表は、かれらを部族、役割、典拠とともに整理したものです。各人物の部族は改めて確認しており、スィーラ書にしかない情報ははっきりと示しています。

ムスリム側

人物	部族	役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	クライシュ（タイム家）	協議で意見を述べる；ウマルを落ち着かせる	ブハーリー 4178、2731
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	クライシュ（アディー家）	条件に動揺し、のちに悔いる	ブハーリー 2731、3182
ウスマーン・ブン・アッファーン	クライシュ（ウマイヤ家）	マッカへの使者；アッラーの使徒の手による代理の誓い ﷺ	ブハーリー 3698
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	和約の書記	ムスリム 1784；ブハーリー 2699
ウンム・サラマ	クライシュ（マフズーム家）	屠って頭を剃るよう助言	ブハーリー 2731
アル＝ムギーラ・ブン・シュウバ	サキーフ族	ウルワの交渉中、剣を持ってアッラーの使徒 ﷺ を守って立った	ブハーリー 2731
サラマ・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	三度誓った	ブハーリー 4169；ムスリム 1807
マアキル・ブン・ヤサール	ムザイナ族	誓いのとき、アッラーの使徒 ﷺ の頭上で木の枝を持っていた	ムスリム 1858

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

人物	部族	役割	典拠
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	アンサール、ハズラジュ族（サリマ家）	1,400 人と「地上で最も優れた人々」の伝承者	ブハーリー 4154
アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ	アンサール、アウス族（ハーリサ家）	あふれた井戸の話の伝承者	ブハーリー 4150
カアブ・ブン・ウジュラ	バリー族、アンサールの同盟者	剃髪の償いの規定が下る理由となった	ブハーリー 4159
アブー・ジャンダル・ブン・スハイル	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	足かせのまま返された	ブハーリー 2731
アブー・バスィール	ブハーリー：「クライシュの一人の男」；スィーラ書：ウトバ・ブン・アスィード・アッ＝サカフィー、ズフラ家の同盟者	虐げられたムスリムに出口を開いた	ブハーリー 2731；スィーラ書
アル＝ジャッド・ブン・カイス	アンサール（サリマ家）	ただ一人誓わなかった；自分のラクダの腹の下に隠れた	ムスリム 1856

クライシュとその同盟者の側

人物	部族	役割	典拠
スハイル・ブン・アムル	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	クライシュの交渉者；マッカ解放の日にイスラームに入る	ブハーリー 2731；伝記書
ブダイル・ブン・ワルカー	フザーア族	最初の使者；和平の申し出を伝えた	ブハーリー 2731
ウルワ・ブン・マスウード	サキーフ族	教友たちの愛に感嘆した	ブハーリー 2731

人物	部族	役割	典拠
キナーナ族の男	キナーナ族；スィーラ書はアル＝アハービーシュの長アル＝フライス・ブン・アルカマと名を挙げる	首飾りをかけた犠牲の動物を見て、クライシュに助言した	ブハーリー 2731；スィーラ書
ミクラズ・ブン・ハフス	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	使徒に悪い男と評された	ブハーリー 2731
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	クライシュ（マフズーム家）	アル＝ガミームで騎兵を率いた；ヒジュラ暦 8 年にイスラームに入る	ブハーリー 2731

スィーラの注：井戸に降りたのは誰か

真正なハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が一本の矢を取り出し、それを井戸の中に置くよう命じられると、水が湧き出したと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。ハディースは、誰が井戸に降りたのかを名指ししていません。イブン・イスハークはそれをナージヤ・ブン・ジュンドゥブ・アル＝アスラミーとし、別の名を挙げる伝承もあります。スィーラ書はまた、ハラーシュ・ブン・ウマイヤ・アル＝フザーイーを、ウスマーンより前にマッカへ送られた最初の使者として挙げています。どちらの情報もスィーラ書からのものです。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』（ハディース第 2731 番）。

教訓

フダイビーヤには、クライシュ、アンサール、サキーフ、アスラム、ムザイナなど多くの部族の人々が集まり、皆が一本の木の下で一つになりました。相手側でも、スハイル、ハーリド、ウルワなど、のちにイスラームに入った者が大勢いました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一方、アル＝ジャッド・ブン・カイスは、大きな出来事に居合わせることが清い心を保証するわけではないという戒めとなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤへの道の地名

マディーナからフダイビーヤへの旅は、ハディースやスィーラ書に出てくるいくつかの場所を通りました。下の表は、それらを旅の順に並べたものです。一部の場所の正確な位置は確定できないため、距離ははっきりした現代の典拠がある場合にのみ記しています。

場所	出来事	典拠
	アッラーの使徒 ﷺ がズル＝カアダ月にウムラのために出発	ブハーリー 1778
ズル・フライファ	イフラームに入る；犠牲の動物に印と首飾り	ブハーリー 4178
ガディール・アル＝アシュタート（ウスファーンの近く）	偵察者が知らせを届ける；アッラーの使徒 ﷺ が協議される	ブハーリー 4178
アル＝ガミーム	ハーリド・ブン・アル＝ワリードが騎兵を率いて待つ；使徒は別の道をとる	ブハーリー 2731
サニーヤ（マッカへ向かう峠道）	アル＝カスワーがひざまずく	ブハーリー 2731；スィーラ書はサニーヤト・アル＝ムラールと名を挙げる
アル＝フダイビーヤ	あふれた井戸；交渉；リドワーンの誓い；和約	ブハーリー 2731、4150
帰り道	勝利章が下る	ブハーリー 4177

今日のアル＝フダイビーヤ

アル＝フダイビーヤは、マッカの聖域の西の端にあります。マッカの当局が発行するサイト「Discover Makkah」は、そこがマッカから約 20 km にあり、古い井戸の跡が今も残っていると述べています（Discover Makkah: Al-Hudaybiyah）。アラブ・ニュース紙

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：68 / 83

は、ジェッダへの旧道沿い、マッカから約 20 km のアッ＝シュマイスィーの近くにあるモスクについて伝えています（Arab News）。

忘れてはならないのは、リドワーンの誓いの木は特定できないということです。誓いを立てた教友たち自身でさえ、翌年にはその場所がわからなかったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4163；第 10 章）。したがって、ある場所がその木の場所だという主張は、どれも確かめることができません。

教訓

これらの場所は、アッラーの使徒 ﷺ が流血を避けるために険しい道を選ばれたことの証人です。残るのは木や石ではなく、教訓です：忍耐、服従、そしてアッラーの満悦。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤの和約の年表

図1では簡単な年表を示しました。下の表は、それを各出来事の典拠とともに詳しくしたものです。真正なハディースは、フダイビーヤのウムラがズル＝カアダ月に行われたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』1778）。より詳しい日付はスィーラ書によるものです。

番号	出来事	典拠
1	アッラーの使徒 ﷺ が安らかに聖モスクに入る夢を見られる	勝利章 48:27
2	ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月：約 1,400 人の教友とともにウムラのためにマディーナを出発	ブハーリー 1778、4154
3	ズル・フライファ：イフラームに入り、犠牲の動物に首飾りをかける	ブハーリー 4178
4	ガディール・アル＝アシュタート：クライシュの知らせ；教友たちとの協議	ブハーリー 4178〜4179
5	アル＝ガミームでハーリドの軍を避ける；アル＝カスワーがひざまずく	ブハーリー 2731
6	アル＝フダイビーヤ：涸れた井戸があふれる	ブハーリー 4150、2731
7	クライシュの使者たち：ブダイル、ウルワ、キナーナの男、ミクラズ	ブハーリー 2731
8	ウスマーンがマッカへ遣わされる；殺されたという噂	ブハーリー 3698；スィーラ書
9	木の下でのリドワーンの誓い	ブハーリー 4169；勝利章 48:18
10	スハイル・ブン・アムルの到着；アリーが和約を書く	ブハーリー 2731；ムスリム 1784
11	アブー・ジャンダルが足かせのまま返される	ブハーリー 2731
12	タハッルル：屠り、頭を剃る；カアブ・ブン・ウジュラの償い	ブハーリー 2731、4159

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

番号	出来事	典拠
13	帰り道：勝利章が下る	ブハーリー 4177
14	マディーナで：アブー・バスィール；移住してきた女性たち	ブハーリー 2731、2711〜2712；試問される女章 60:10
15	ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月：ハイバル、「近い勝利」	勝利章 48:18；スィーラ書
16	ヒジュラ暦 7 年ズル＝カアダ月：やり直しのウムラ（ウムラ・アル＝カダー）	ブハーリー 1778
17	ヒジュラ暦 8 年：クライシュの同盟者バクル族がフザーア族を襲う；和約が破られる	スィーラ書
18	ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月：マッカ解放	スィーラ書

ムスリムがフダイビーヤに滞在した期間は、この電子書籍で参照した真正なハディースには述べられていません。スィーラ書は数週間としていますが、その数字はまちまちです。

教訓

この年表は、アッラーの約束が一つずつ果たされていったことを示しています。数か月後にハイバル、1 年後にウムラ、2 年後にマッカ。必要だったのは、その道のりの間ずっと忍耐し、従うことだけでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤの和約についてのよくある質問

1. フダイビーヤにいた教友は何人だったのか？

真正な伝承は三つの数字を挙げています。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファーは 1,300 人としています（『サヒーフ・ブハーリー』4155）。ジャービルとアル＝バラーウは 1,400 人としています（『サヒーフ・ブハーリー』4154、4150）。ジャービルからの別の伝承では 1,500 人です（『サヒーフ・ブハーリー』4153）。イブン・ハジャルが『ファトフ・アル＝バーリー』で述べるなど、学者たちはこれらの伝承を調和させ、人数は 1,400 人を超えていたとしています。伝承者はそれぞれ自分の数え方で述べたのです。

2. なぜアッラーの使徒ﷺは、啓示を受けておられたのに協議されたのか？

ウンマに教え、教友たちを尊重するためです。使徒はガディール・アル＝アシュタートで「人々よ、私に意見を述べなさい」と仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』4178）。アッラーもまた、教友たちと協議するよう使徒に命じられました（イムラーン家章 3:159）。

3. アッラーの使徒ﷺは、自分の判断でそれらの条件を受け入れられたのか？

ウマルが尋ねたとき、使徒は仰せられました：「わたしはアッラーの使徒であり、主に背くことはない。主こそわたしの助け手である」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。学者たちはこの言葉から、使徒がアッラーの導きに従って行動されたと理解しています。

4. 勝利章 48:11 の「残ったベドウィン」とは誰か？

かれらは、ムスリムが滅びると思って出発を拒んだ、マディーナ周辺のベドウィンの部族の一部です。注釈者たちはいくつかの部族の名を挙げていますが、同じ部族

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

から多くの教友がフダイビーヤに参加していました。したがって、この節は部族全体ではなく、個人の態度を評価しているのです（第 24 章）。

5. なぜアッラーは、そのときマッカでの戦いを許されなかったのか？

クルアーンが述べている英知の一つは、マッカには隠れた男女の信者がいて、戦いになれば知らずにかれらを殺してしまうおそれがあったことです（勝利章 48:25）。アッラーはまた、双方の手を押しとどめられました（勝利章 48:24）。

6. その場にいた全員が誓いを立てたのか？

ジャービル رضى الله عنه は、自分のラクダの腹の下に隠れたアル＝ジャッド・ブン・カイス・アル＝アンサーリーを除き、皆が誓いを立てたと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1856）。ウスマーンはマッカに遣わされていて不在でしたが、アッラーの使徒 ﷺ がご自身の手でかれのために誓いを立てられました（『サヒーフ・ブハーリー』3698）。

7. やむを得ず頭を剃ったイフラーム中の者の規定は？

頭を剃ってもよく、償いをしなければなりません：3 日間の断食、6 人の貧者に食事を与えること、または羊 1 頭を屠ることです。この規定は、フダイビーヤでのカアブ・ブン・ウジュラのことで下りました（雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』1814）。

8. フダイビーヤのモスクは誓いの木の場所に建てられたのか？

その木の場所は、その下で誓いを立てた教友たちにさえわかりませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』4163）。その地域のモスクは出来事のあった一帯を示すものであって、木の確かな場所を示すものではありません。

9. 休戦はどれくらいの期間で、なぜ終わったのか？

スィーラ書は 10 年間の休戦と伝えています。それはわずか約 2 年しか続かず、クライシュの同盟者バクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族を、クライシュの援助を受けて襲ったときに終わりました。その違反がマッカ解放へとつながったのです（第 21 章）。

10. ウマルが動揺していたのに、なぜアブー・バクルは落ち着いていたのか？

二人とも誠実でした。ウマルは宗教への熱い思いから動揺し、アブー・バクルはアッラーの使徒 ﷺ への確信から落ち着いていました。その答えが使徒の答えと同じになったほどです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。ウマル自身ものちに悔い、善行を増やしました（第 15 章）。

11.「近い勝利」（48:18）と「多くの戦利品」（48:20）とは何を指すのか？

イブン・カスィールは、それがフダイビーヤの数か月後に開かれたハイバルを指すと述べています（『イブン・カスィール注釈』48:18）。ハイバルの話は、イン・シャー・アッラー、第 16 巻で語られます。

12. フダイビーヤは今日の私たちに何を教えるのか？

フダイビーヤは、決定の前に協議すること、形式では柔軟でも原則では揺るがないこと、重くても約束を守ること、そしてアッラーの定めを良く思うことを教えています。「あなたがたは、自分にとって良いことを嫌うかもしれない」（雌牛章 2:216）。

教訓

これらの質問は、フダイビーヤが注釈、法学、歴史、品性の知識に富んでいることを示しています。クルアーンと真正なハディースの典拠を、スィーラ書の伝承や学

者の見解と区別することで、私たちはこの出来事を正確に理解し、その教訓を確信をもって受け取ることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

フダイビーヤの和約は、**人間の見方には限りがある**一方で、アッラーの知識はすべてを包むことの証拠です。その日、敗北のように見えたものは、イスラームの歴史における最大の勝利への扉だったのです。

アッラーは仰せられます：「**あなたがたは、自分にとって良いことを嫌うかもしれない。また自分にとって悪いことを好むかもしれない。アッラーは知っておられ、あなたがたは知らないのである**」『イブン・カスィール注釈』2:216。

教訓	フダイビーヤから
アッラーの約束は確か、その時はアッラーのもの	夢は 1 年後に実現した（48:27）
和平を優先する	「アッラーの聖なるものを敬うどんな計らいでも与えよう」
形式では柔軟、原則では揺るがない	ビスミカッラーフンマ；アブドゥッラーの子ムハンマド
約束を守る	アブー・ジャンダルとアブー・バスィールが返された
自分の意見を疑う	ウマルの動揺と後悔
手本は言葉より強い	ウンム・サラマの助言
困難とともに容易さがある	重い条件 → 出口（アブー・バスィール）
剣によらない勝利	「明白な勝利」（48:1）

私たちの生活の中のフダイビーヤ

人生において、私たちもそれぞれの「フダイビーヤ」に直面します — 心が満足しなくても受け入れざるを得ない決定、不利に見える約束、延期された計画。この物語は、**忍耐し、約束を守り、心を広く持つ**こと、そしてアッラーが、まだ私たちには見えない「**近い勝利**」を用意しておられると信じることを教えてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 16 巻 — フダイビーヤの後の出来事 —** へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:196、216；戦利品章 8:61；勝利章 48:1–29；試問される女章 60:10）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1727、2699、2711、2731、3182、3698、4150、4152、4154、4163、4169、4172、4177。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1318、1784、1856、2496。https://sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— フダイビーヤの章。

イブン・サアド『大列伝』；アル＝ワーキディー『遠征の書（マガーズィー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— フダイビーヤの和約の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— 条件の書（ハディース 2731）と遠征の書。

社会科学

Fisher, R., Ury, W. & Patton, B. Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In. Harvard Negotiation Project. https://www.pon.harvard.edu/tag/getting-to-yes/

Wikipedia「Treaty of Hudaybiyyah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Treaty_of_Hudaybiyyah

Wikipedia「Pledge of the Tree」。https://en.wikipedia.org/wiki/Pledge_of_the_Tree

Wikipedia「Suhayl ibn Amr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Suhayl_ibn_Amr

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179（ガディール・アル＝アシュタートでの協議）。https://sunnah.com/bukhari:4178

『サヒーフ・ブハーリー』4159、1814（カアブ・ブン・ウジュラと剃髪の償い）。https://sunnah.com/bukhari:4159

『サヒーフ・ブハーリー』4153、4155（フダイビーヤの教友の人数）。https://sunnah.com/bukhari:4155

『サヒーフ・ブハーリー』1778（アッラーの使徒 ﷺ のズル＝カアダ月のウムラ）。https://sunnah.com/bukhari:1778

『サヒーフ・ムスリム』1856（アル＝ジャッド・ブン・カイスは誓わなかった）。https://sunnah.com/muslim:1856c

『サヒーフ・ムスリム』1858（マアキル・ブン・ヤサールが木の枝を持った）。https://sunnah.com/muslim:1858

『イブン・カスィール注釈』勝利章 48:11 と 48:25。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/25

Discover Makkah「Al-Hudaybiyah」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/landmarks/al-hudaybiyah

Arab News「Hudaibiyah: Grand victory in Islamic history」。https://www.arabnews.com/node/444232

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

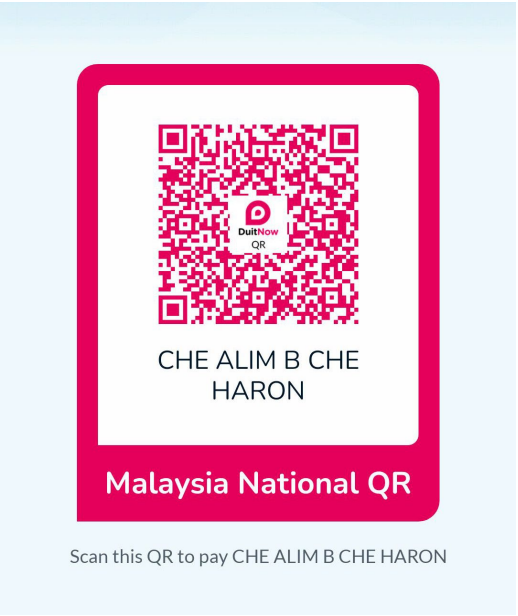
ル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience